

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

| | | |
|--|---|---|
| 通し 番号 | 2 | 事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 |
| | | 助成対象団体名： 公益財団法人せたがや文化財団 施設名： 世田谷文化生活情報センター (世田谷パブリックシアター) |
| <p>助成対象活動に関する評価</p> <p>(妥当性)</p> <p>世田谷パブリックシアター（以下、当該劇場）のミッションは、世田谷区の第三期文化・芸術振興計画（調整計画）をそのまま記載しており、ヒアリングを行ったものの、劇場のミッションが自治体の文化振興計画となっている。当該劇場独自のミッションの設定を求めたい。</p> <p>ビジョンについては、「時代を反映するオリジナリティあふれる舞台作品の創造・発信」「新たな観客の開拓・育成と鑑賞機会の設定」「作品創造や人材交流による国内外の劇場等との交流の拡充」などと当該劇場の事業に整合している。</p> <p>当該劇場は、事業計画の概要に力点を置いており、地域、日本、世界という同心円を動かす事業と学芸という両輪を、8項目の有機的連関で回転させていくとしている。その組立てで事業が紐づけられており、現状において、コロナ禍による海外関連の事業以外は予定どおりに進められている。</p> <p>以上のことから、劇場のミッションが自治体の文化振興計画となっているものの、ミッションと、ビジョン、地域のニーズ、アウトカム、目標、指標、事業が有機的に連関し、当初の予定どおりに事業が推進されていると一定程度認められる。</p> <p>(有効性)</p> <p>当該劇場は、「公演事業アウトカム」「学芸事業アウトカム」が発現された後、「総合アウトカム」の発現を目指すという戦略を立てている。アウトカム発現までの具体的な目標、指標は「公演事業アウトカム」「学芸事業アウトカム」のみであり、「総合アウトカム」の発現を目指した目標、指標の設定はない。</p> <p>目標、指標と個別事業については紐づけができていない。目標、指標の達成状況として「先鋭的な海外舞台芸術の招へい、国際共同制作の推進」の目標に対し、上村聡史演出作品『森 フォレ』、磨赤兒×フランソワ・シェニョー『ゴールドシャワー』などを開催し、対象事業の平均入場率は103.3%で目標を達成した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が影響し開催方法を変更した事業もあり入場者・参加者数は目標に達しなかったが、友の会会員数は4,638人と目標を上回った。メールマガジン送付は年間205,248人、Twitter フォロワー数も27,913人と当初の目標を上回っている。新型コロナウイルス感染症が影響し下回った部分以外は目標、指標についてはおおむね達成している。</p> <p>以上のことから、目標、指標の設定がないため「総合アウトカム」の発現が期待できるとは認められないが、「公演事業アウトカム」、「学芸事業アウトカム」の発現はおおむね期待できる。</p> <p>(効率性)</p> | | |

事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。

また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。

（創造性）

コロナ禍のため中止となった公演もあったが、海外カンパニーの渡航が不可能となった公演においては映像作品を導入するなど臨機応援な対応も認められ、事業計画はおおむね達成した。

「狂言劇場 その九」において、芸術監督である野村萬斎の活動方針「伝統芸能と現代演劇の融合」のコンセプトに基づいた作品制作、演出空間の発想力は優れていた。一方、具体的な再演意図や、どのようなシーンを新たに改定したのか不明であったこと、出演者の技術の力量に高低差が見受けられたことにより、作品全体の完成度は一定程度にとどまった。

『ゴールドシャワー』において、気鋭のアーティスト、フランソワ・シェニヨーと舞踏界の大御所である磨赤児の組合せにより、ダンスの違い、世代、ジェンダー、文化的背景を超え、それぞれの個性を生かしつつも融合する独特の世界観を作り上げることに成功した。なお、本活動の成果により磨赤児が第76回文化庁芸術祭賞 舞踊部門（関東参加公演の部）で大賞を受賞した。

『愛するとき 死するとき』は、演劇賞受賞の実績を備え、当該劇場における演出経験も有する小山ゆうなによる、海外（ドイツ）戯曲の日本初演であり、音楽劇、会話劇、朗読劇の3部構成とした演出や、直管のLED照明でベルリンの壁を表現した舞台美術が秀逸であった。

令和3年度は前述のほか、『森 フォレ』演出の上村聡史が第56回紀伊国屋演劇賞 個人賞、第29回読売演劇大賞 最優秀演出家賞を受賞し、同作品で音楽を担当した国広和毅、美術の長田佳代子が第29回読売演劇大賞 優秀スタッフ賞を受賞している。また、『彼女を笑う人がいても』は第66回岸田國土戯曲賞最終候補作品となった。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内での評価の向上につながっているとおおむね認められる。

（持続性）

ヒアリングや自己点検報告書等によると、平成27年度に公正取引委員会や労働基準監督署からの指摘を受け、「世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針」や「公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画」を策定し、これに基づいた改善を行っている。具体的には総合職員や専門職員の配置、主任や部長などへの管理職の昇任、部長補佐級の設置などがあげられる。また、働き方改革関連法により、勤務シフトを8つにした効果も出てきており、組織全体での取組として評価できる。

劇場や関連団体との連携強化については、当該劇場で企画制作した作品のツアー公演を全国各地にて実施し、成果の共有を図っている。令和3年度は5事業14会場26回のツアー公演が開催され、当該劇場の専門的知見と人的ネットワークが発揮されていることが認められる。

当該劇場は、外資系を含む民間企業からの協賛実績、寄付金や多様な助成金への挑戦な

ど多角的な財源確保に努めている。引き続き指定管理料以外の財源確保に期待したい。

年度途中での館長交代、総合支援の2年目での芸術監督の交代という劇場の根幹ともいえる大きな人材が変更となっている。新館長、新芸術監督のもと新しいアプローチで事業を進めていくことになるが、採択時における申請内容の継続や、経営体制と雇用体制をより一層進展させていくことに期待したい。

以上のことから、事業計画を通じて組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

劇場のミッションが自治体の文化振興計画の記載となっており、ヒアリングを行っても不明確であること、総合アウトカムの目標、指標が設定されていないことなどから、妥当性、有効性について一部判定ができない。

事業計画について、コロナ禍でありながらも、海外戯曲の創作初演や海外との共同制作など質の高い公演に果敢に取り組み、文化芸術に関する賞を数多く受賞していることは評価できる。また、全国の劇場や関係団体と連携を取り、企画制作した作品のツアー公演を行うことで、当該劇場の専門性や知見を全国にて共有する機会も設けており、全国の劇場を導く姿勢が認められる。

創造環境を担保するために、当該劇場では、雇用環境や人材育成の整備にも積極的に取り組み、新たに部長補佐級を設けることで、劇場の未来を見据えた上層部の育成も認められる。

以上のことから、全国の公立劇場をけん引する存在として、事業計画を遂行したことが一定程度認められる。

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否